企画展

あいちの発掘調査2024

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

はじめに

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。今回の企画展では、高ノ御前遺跡（東海市）、清洲城下町遺跡（清須市）、田光遺跡（名古屋市瑞穂区）、根道外遺跡（設楽町）、亀塚遺跡（安城市）、掛梨遺跡（西尾市）、三ツ山古墳（豊橋市）、岡崎城跡（岡崎市）など、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示します。

展示は、県内各地の発掘調査を実施し、大きな成果を挙げてきた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（弥富市）の協力を得て、考古学の視点から県内各地域の歴史を概観できる展示となっています。

目次

はじめに ……2
高ノ御前遺跡、清洲城下町遺跡 ……3
田光遺跡、根道外遺跡 ……4
亀塚遺跡 ……5
掛梨遺跡、三ツ山古墳 ……6
岡崎城跡、朝日遺跡 ……7
発掘調査の手順 ……8

凡例

・本書は2025年1月18日（土）から3月9日（日）まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「あいちの発掘調査2024」の展示パンフレットである。
・本展覧会は、愛知県から委託を受けて公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター（以下、愛知県埋蔵文化財センター）が企画した。
・本書の構成と実際の展示構成は異なる部分がある。
・掲載写真のうち、撮影機関と提供機関が同一の場合は提供機関のみを記載した。
・調査成果の紹介文は、調査機関から提供を受けた原稿をもとに、愛知県埋蔵文化財センターが取りまとめた。
・本書のデザイン・イラスト画は小川敦子が行った。
・本展覧会の開催にあたり、下記の機関・個人の協力を得た。
愛知県埋蔵文化財調査センター、安城市教育委員会、岡崎市教育委員会、株式会社イビソク、清須市教育委員会、東海市教育委員会、豊橋市教育委員会、名古屋市教育委員会、西尾市教育委員会
飯塚寿音、植田美郷、大熊久貴、河嶋優輝、川添和暁、島田結華、城ヶ谷和広、鈴木理絵、高山英里香、田中良、中川永、西島庸介、早川由香里、林順、平山優、深澤芳樹、安田彩音、吉田皓

表紙：上：根道外遺跡／大型石棒／縄文時代／愛知県埋蔵文化財センター
中：亀塚遺跡／赤彩竪櫛／弥生時代から古墳時代／愛知県埋蔵文化財センター
下：掛梨遺跡／遺跡遠景／古墳時代から鎌倉時代／西尾市教育委員会提供

高ノ御前遺跡（たかのごぜんいせき）

注目ポイント 海に生きる縄文人
～前・中・後・晩期の流れに身をまかせ

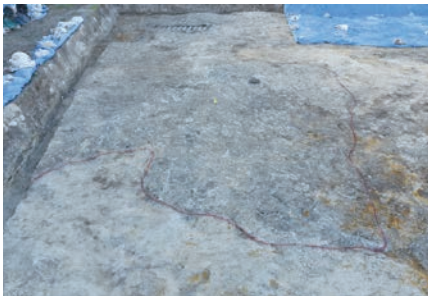
所在地	東海市大田町高ノ御前・前畑地内
時代	縄文時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器・石器・貝類
調査機関	東海市教育委員会

高ノ御前遺跡は丘陵の舌状部分に立地する縄文時代を主体とする遺跡である。江戸時代以降の埋立により現在は海岸線が遠のいているが、かつては海に近い遺跡であった。遺跡は明治時代より存在が知られ、過去の調査では、縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器、石鏃（せきぞく）、石錘（せきすい）、石錐（いしきり）、磨製石斧（ませいせきふ）等の石器が出土している。

2023（令和5）年度は市道整備に伴い、東海市教育委員会が調査を実施した。調査地点は丘陵の先端部分で、遺跡北側縁辺にあたる。部分的に確認した包含層からは縄文時代前期と弥生時代後期の土器が出土し、骨角器やシカと思われる歯も出土した。

今回の調査により、遺跡の北限を想定することが可能となり、遺跡内における縄文時代前期の活動域を推定する手がかりを得た。出土量が僅少であった縄文時代後・晩期の土器と石器群については、今回の調査地点より標高が高い地点を中心に広がっていると考えられる。

1-1　第3次調査報告縄文土器



1-2　第2地点包含層検出状況

清洲城下町遺跡（きよすじょうかまちいせき）

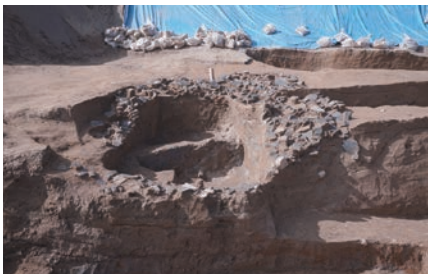
注目ポイント 姿を現した織田の城
～織田信雄の石垣

所在地	清須市一場地内
時代	奈良時代から江戸時代
遺跡種別	城館
主な出土品	瓦・陶磁器
調査機関	愛知県埋蔵文化財センター

清洲城下町遺跡は五条川両岸の自然堤防状の微高地とその後背湿地に広がる遺跡である。今回の調査区は「清須城」の本丸北側、古城絵図の中枢部の北端に位置する。

江戸時代前期以降の特筆すべき遺構として、瓦だまりがある。遺構は清須越しに関連すると考えられ、瓦葺（櫓状）建物の存在が想定される。下層では「後期清須城」の石垣が検出された。石垣は2000年度調査区から続く部分で北東に位置する。石垣の基底部には栗石が敷き詰められていた。

隣接する2000年度調査区から出土した木簡には「ほしの新右衛門」の記載があり、この人物が『織田信雄分限帳（おだのぶかつぶんげんちょう）』に記載された人物の可能性が高いことから、石垣の造成時期は織田信雄が城主の時期（1586年～1590年）と考えられる。



2-1　瓦だまり検出状況

2-2　石垣検出状況

1-1・2：東海市教育委員会 提供　2-1・2：愛知県埋蔵文化財センター 撮影

田光遺跡（たこういせき）

注目ポイント どのように使ったか？
手焙形土器の謎に迫る発見

所在地	名古屋市瑞穂区田光町・大喜町
時代	弥生時代から鎌倉時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器
調査機関	株式会社イビソク

田光遺跡は瑞穂台地上の南西縁辺部に位置し、近隣には環濠集落の瑞穂遺跡が立地している。

弥生時代後期の竪穴建物は4軒検出し、1軒は焼失竪穴建物である。竪穴建物の柱穴からは手焙形土器（てあぶりがたどき）が出土した。被熱痕（ひねつこん）、液体状のものを入れたと考えられる水平の痕跡は手焙形土器の性格を把握するうえで、一例を加えることができた。

弥生時代末期～古墳時代初頭の竪穴建物は6軒検出し、貯蔵穴からは甕・高坏などが出土している。環濠集落が衰退する時期に、田光遺跡においては竪穴建物群が盛んに営まれているという状況が判明した。

古墳時代前期～中期の建物として竪穴建物3軒を検出し、貯蔵穴と見られる方形土坑より土師器の甕と甑が出土した。甑は渡来系文化に見られる韓式土器の形態的特徴を有する。

瑞穂台地上における人々の動態を知るうえで重要な遺跡であると考えられ、今後の調査および整理・研究の成果に期待したい。

3-1　手焙形土器

3-2　焼失竪穴建物出土炭化材

根道外遺跡（ねみちそといせき）

注目ポイント 山に生きる縄文人
～立ったままの大型石棒

所在地	設楽町八橋字根道外
時代	縄文時代から弥生時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器・石器
調査機関	愛知県埋蔵文化財センター

根道外遺跡はタコウズ川左岸の細尾根の緩斜面上に立地する。調査は設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として実施した。

調査では縄文時代中期後半～弥生時代前期の遺構・遺物が見つかり、特徴的な遺構として、縄文時代中期の石棒祭祀跡が調査された。大型石棒は竪穴建物跡の南東壁中央奥で板石に囲われた状態で出土した。花崗岩製で、頭部が明瞭に作り出されている一方、基部は敲打などで切断されていた。

重複して確認された竪穴建物跡からは石囲炉跡も見つかった。石囲炉跡は一辺1.5mを測り、北西隅には一辺10cmほどの副炉が設けられていた。この副炉は、長野県下伊那地域から豊田市稲武地区に見られる石囲炉跡の端に立てられた大型石棒に相当する役割を有していたと考えられる。

4-1　竪穴建物跡内大型石棒

4-2　竪穴建物跡床面検出

3-1・2：名古屋市教育委員会 提供　4-1・2：愛知県埋蔵文化財センター 撮影

亀塚遺跡

注目ポイント 誰が身につけたか？
～オーダーメイドの赤彩竪櫛

所在地	安城市桜井町地内
時代	弥生時代から古墳時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器・竪櫛などの木製品
調査機関	愛知県埋蔵文化財センター

碧海台地と矢作川の沖積地との間には一級河川鹿乗川が流れる。それに沿って南北4km以上に展開する遺跡群が鹿乗川流域遺跡群である。亀塚遺跡は遺跡群の中央付近にあり、1977（昭和52）年の調査で人面文壺形土器が出土したことで知られる。

2023（令和5）年度の調査では、旧流路の堆積層とその上層の包含層中から、弥生時代後期から古墳時代前期までの土器が大量に出土した。埋土下層の湧水層からは木製品も多量に出土している。

5-1　弥生時代後期から古墳時代前期の旧流路

旧流路の注目すべき出土品として赤彩竪櫛が挙げられる。竪櫛は長さ約11cm、幅約5cm、厚さ約0.6cmで、ほぼ完存する。榧の板材から削り出して製作され、櫛歯を除いたムネ部には直線状・半円状の線刻が施される。ムネ部の線刻は櫛歯を折り曲げて結束する結歯式竪櫛を模したものであると想定される。線刻の内部や凹部に遺存する赤色顔料は蛍光X線分析により水銀朱であることが確認された。時期は共伴する土器から弥生時代後期～古墳時代初頭ごろと考えられ、板材からの削り出しで製作された竪櫛としては最末期に位置づけられる。

5-2　旧流路出土赤彩竪櫛（保存処理後）

発掘調査では弥生時代後期～終末期の大型方形周溝墓も確認された。墳丘部は１辺約26.0mの正方形、周溝の幅は9.0m～16.6m、南北の周溝の外端間距離は約57.5mを測り、出土遺物は弥生時代後期から終末期を中心とし、特殊な製品として墳丘北東裾部で出土した器台が挙げられる。

その他、弥生時代中期後葉の土器棺墓1基などが確認されたが、竪穴建物の集中するような居住域は確認できなかった。亀塚遺跡を中心とした集落の居住域の所在については未だ明らかになっておらず、今後の調査による解明が期待される。

5-3　大型方形周溝墓

5-1～3：愛知県埋蔵文化財センター 撮影

かけ なし い せき
掛梨遺跡

注目ポイント 海に生きた塩作りの民
～捨てられた製塩土器

所在地	西尾市一色町佐久島掛梨
時代	古墳時代から鎌倉時代
遺跡種別	製塩遺跡
主な出土品	製塩土器
調査機関	西尾市教育委員会

掛梨遺跡は佐久島の海浜部に位置する古墳時代の製塩遺跡である。西尾市は遺跡の保存と活用を進めていく上で、遺跡範囲や内容の把握が必要となることから今回の発掘調査を実施した。

調査の結果、製塩土器を多量に含む黒色砂質土層を検出し、堆積状況・遺物の残存状況が良好な調査区では製塩土器が出土する層位を確認した。黒色砂質土層の直下では固い灰色砂質土層と、製塩の際に生じたカルシウム分とみられる白色物質が検出された。

出土遺物はその大半を6世紀の製塩土器片が占める。製塩土器は知多式類似、渥美式、篠島式に区分される。生活に関する遺物・遺構はほとんど見つかっておらず、古墳時代には製塩活動に特化した場所であったと推定される。

6-1　黒色砂質土層の製塩土器出土状況

6-2　出土遺物写真

み つ やま こ ふん
三ツ山古墳

注目ポイント 海を舞台に躍動した王
～供えられた埴輪と須恵器

所在地	豊橋市牟呂町
時代	古墳時代
遺跡種別	古墳
主な出土品	埴輪・土器・鉄製品
調査機関	豊橋市教育委員会

三ツ山古墳は豊橋市街から西に延びる低位段丘縁辺部に立地する古墳時代後期の全長38mの前方後円墳である。この低位段丘は、三河湾に向かって細長く張り出した小さな半島のようになっていた。平成の調査では墳丘全体にトレンチを設定して調査を行い、令和の調査は公園整備に伴い、平成の調査の補足調査として実施した。

調査の結果、墳丘が二段に築かれていること、墳丘の周りに周溝が全周すること、墳丘上に埴輪を立て並べていたことが明らかになった。

古墳には後円部と前方部に石室が設けられた。前方部の石室は無袖形の横穴式石室で、大刀、馬具、鉄鏃、須恵器が出土した。墳丘の一段目からは円筒埴輪列も見つかった。他にも形象（人物）埴輪の破片が出土している。

令和の調査後、豊橋市は三ツ山古墳の保護と簡易な復元を含めた公園の整備を行い、2024（令和6）年4月に三ツ山公園として供用を開始した。

7-1　前方部の横穴式石室

7-2　復元した三ツ山古墳

6-1・2：西尾市教育委員会 提供　7-1・2：豊橋市教育委員会 提供

岡崎城跡（おかざきじょうあと）

注目ポイント 姿を現した徳川の城
～坂谷曲輪の枡形

所在地	岡崎市康生町
時代	室町時代から江戸時代
遺跡種別	城館
主な出土品	瓦・陶磁器
調査機関	岡崎市教育委員会

岡崎城の大部分は西側を南流する矢作川と菅生川（すごうがわ）により形成された河岸段丘上に立地し、円礫を多く含んだ強固な地層を活かして、高低差に富んだ城郭を形成している。

2023（令和5）年度は岡崎城本丸の西側に位置する坂谷曲輪（さかたにくるわ）の虎口、坂谷門で発掘調査を実施した。外門では北側控柱の礎石を確認した。外門の背後には高さ約0.1mの横石を確認した。内門では8石の礎石を確認した。外門の脇石垣は北側と南側で規模が異なる。両袖とも築石背後には栗石が充填され、その内側は土が突き固められている。その他、石組み側溝も確認された。

今回の調査で枡形（ますがた）の基礎構造について、配置や規模をおおよそ明らかにすることができた。今後はこれに基づいて史跡整備を行う予定である。

8-1　外門正面

8-2　調査区俯瞰写真

朝日遺跡（あさひいせき）

注目ポイント 流行りのデザイン
～弥生のアクセサリー特集

所在地	清須市、名古屋市西区
時代	弥生時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器・石器・木器・骨牙貝製品など
所蔵	あいち朝日遺跡ミュージアム

東海地方最大の弥生集落、朝日遺跡。長期間にわたる発掘調査では、多数の遺物が出土している。今回の展示では、関連講演会のテーマにとりあげられた「赤彩竪櫛」にちなみ、装身具（アクセサリー）を紹介する。

朝日遺跡の人々は、骨角製の簪（かんざし）や垂飾（すいしょく）、石製の勾玉や管玉など、様々な素材でつくられたアクセサリーを身に着けていた（9-1）。そのうち簪には、非常に細かな彫刻が施されたものがみられる。写真の簪は、シカの中手・中足骨（手足の甲にあたる部分）を加工して作られており、長さ約16㎝、頭部には鋸歯文（きょしもん）（連続した三角形の文様）が施されている（9-2）。朝日遺跡に住んでいた人々が、いかに高い技術を持っていたかがしのばれる。

9-1　朝日遺跡から出土した装身具
重要文化財（右下3点を除く）

9-2　簪

8-1・2：岡崎市教育委員会 提供　9-1・2：本館 撮影

発掘調査の手順

歴史の研究のため、または工事で遺跡が
壊れる前に記録・保存するために調査をします。

1. 表土を取り除く

ショベルカーなどを使って掘り進めます。

2. 遺構※を見つける

土の色や質の違いを見ながら、人の手で掘ります。穴や溝などの遺構の輪かくを見分け、記録しながら掘り上げます。

※遺構（いこう）とは？
昔の人が残した生活のあと　（住居・井戸・溝など）

3. 調査の記録

調査の様子や出土した遺物※などを写真撮影したり、遺構の大きさ、深さなどを測量して、細かく記録します。

※遺物（いぶつ）とは？
遺跡から出た昔の文化を示す物
（土器・道具・武器・装身具など）

4. 現地説明会

調査で見つかった遺構や遺物を現地で一般公開します。

5. 現地での調査終わり

掘った土を埋め戻し、発掘用具などすべての機材を現地から片づけ、調査が終わります。

6. 調査の記録や遺物を整理する

記録した図面や写真などを後に活用できるように整理して、内容をさらに調べます。
遺物は洗って、割れているものは接ぎ合わせ、図として記録したり、写真を撮影します。

7. 報告書を作る

調査の記録や出てきた遺物から調査成果をまとめ、本にして報告します。

8. 調査終わり

遺物や記録を整理・保管して、展示したり、研究に活用します。

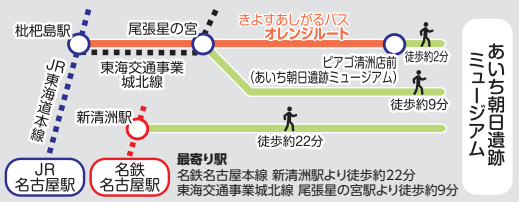
あいち朝日遺跡ミュージアム
■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地　■ TEL：052-409-1467　■ 駐車場 15 台

企画展
「あいちの発掘調査2024」

編集・発行：愛知県埋蔵文化財センター
あいち朝日遺跡ミュージアム
2025（令和7）年1月18日発行

AICHI ASAHI SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。